

FROM 校長室

OG INTERVIEW

教育実習生[養護] 遠藤梨紗さん



Q：卒業年と在籍大学を教えてください。

L.E:好文館高校を平成30年に卒業し、現在は宮城大学看護群に所属しています。

Q：大学4年生ですね。部活は何をしていましたか？

L.E:はい、看護は現場実習が多く、学校での教育実習は4年生の今の時期になります。部活は弓道部でした。

Q：宮城大学を選んだ理由は？

L.E:県内の大学を志望していて、宮城県で養護教諭一種免許状を取得できるのが宮城大だったからです。

Q：いつ頃進路を決定しましたか？

L.E:受験科目と関係する3年次の科目選択の時ですから、2年生の7月頃に決めました。

Q：本校は選択科目が多いですからね。学校の授業の他に塾とか通っていましたか？

L.E:実践科目を取り、また塾にも通っていました。特に定期考査1週間前は授業が終わった16時から19時まで復習して、その後学校から塾に向かい22時に帰宅して24時に就寝する生活をしていました。苦手科目は担当の先生を捕まえては質問をしていました。

Q：受験対策で工夫した点はありますか？

L.E:私はAO(現在の総合型)受験だったので、面接練習やグループディスカッション対策を行っていました。面接練習は、視線を下に向けない。試験管と「会話しているような意識で臨む」など…。グループディスカッションは、そのグループでどのような役割を担うべきかを考え、そして「傾聴」を意識しながら取り組みました。センター試験対策は、平日1日1科目、休日は、1日5科目を目安にし、時間は決めず、自分自身が納得するまでやっていました。

Q：「自分が納得するまで」というのが習慣化できれば強いですね。

Q:将来の夢は…？

まず医療現場で看護師経験を積み、その後、その経験を生かし、生徒の抱える心身の課題を一緒に考えられる養護教諭になりたいと思っています。

Q：模試は積極的に受けていた？

L.E:大学向けと看護専門学校向けの模試を受けていました。模試結果判明後は、解説をよく読み、理解できなければ先生方に聞いていました。ただ、「模試は受けた後が勝負」と考えていたので、模試の復習が追いつかず、受けないこともありました。その分苦手科目の対策をしていましたが…。

Q：壁にぶつかったり、困難を乗り越えたりする時はどのようにしましたか？

L.E:高校生の時は、友人や家族に話を聞いてもらったり、自分の考えや感情をノートに書いたりしていました。大学生の今は、自身の行動や考えを客観的に捉えるために看護実習で使った「プロセスレコード」を書いて整理しています。

Q：プロセスレコードって？

L.E:看護におけるプロセスレコードとは、看護師と患者さんの間の会話記録のことです。会話を振り返ることで、看護師の言動が正しかったか知るものです。患者さんの気持ちをより良く理解することにつながり、良好な関係を作ることができます。私はこの方法を自身の日常生活に利用し、様々なことを振り返っています。

Q：看護の手法を、自身の振り返りに使うなんて面白い。高校生にも役立つそうですね。

L.E:自分の考えや行動を客観的に見ることができますよ。

Q：看護系を目指す後輩に具体的アドバイスはありますか？

L.E:いくつかあります。まず、自分の「看護観」を構成するきっかけを作るため、看護系の本は1冊でも読んでいた方が良いでしょう。2つ目は「根拠＝理由」を意識した文章を書くことに慣れていると実習記録を書くとき、時間短縮につながります。3つ目は、メンタルを鍛えておくことを強くお勧めしますし、自身の体調管理をすること。これこそ看護の1歩目です！

勉強については、「生物」を選択せずに受験する人は合格が決まった後でも良いので、勉強した方がいいですね。看護学科では「生物」を理解していることが前提で始まる授業が多くあり、高校の教科書が一番わかりやすいので復習しましょう。

Q：現在、高校選びをしている中学生に向けて、本校をアピールしてもらえますか？

L.E:石巻好文館は自分の「やってみたい！」が実現できる高校だと思います。授業を自分で選ぶことができ、それぞれの進路に合わせた支援を先生たちが快く引き受けてくれる学校はなかなかないと思います。そして、まだ自分の「やってみたい」が見つかっていない人でも自分の「核」となるものを見つけられるチャンスがあるので、ぜひ好文館で「理想の自分」に一步近づいて欲しいと思っています。

Q：遠藤さんありがとうございました。